

# 資料 1

## 第 1 回 資源管理のあり方検討会 概要（主なポイント）

○日時：平成26年 3 月24日（月） 13:30～16:30

○場所：農林水産省本館 7 階 講堂

### ○概要

#### 1. 座長及び座長代理の選任について

座長として櫻本委員が満場一致で選任された。また、座長代理として東村委員が座長により選任された。

#### 2. 水産資源の状況及び資源管理施策の現状について

（1）資源は悪いという浜の感覚と資源は比較的安定しているという水産庁の資源評価結果にずれがあり、評価基準について再検討すべきとの意見があったが、本検討会では現行の資源評価結果を共通認識として検討を進めることとなった。

（2）議論すべき論点及び方向性については、

- ・ 魚種や漁業種類、沿岸漁業と沖合漁業の違いにより、管理すべき手法が異なることを十分に認識して議論すべき
- ・ 漁業者の自主的な資源管理の効果を検証するとともに、資源管理の実施には経営対策が不可欠
- ・ 各地で取り組まれている I Q の効果等を検証するとともに、サクラエビのプール制のような管理手法も含め、日本型 I Q として取り組む必要があるのではないか

等の意見を踏まえ、議論を進めていくこととなった。

#### 3. 個別魚種の資源管理の現状と課題等について

- ・ 漁業関係者の意見をよく聞いて進めていくべき
- ・ スケトウダラにおける資源評価精度の限界や操業実態等を踏まえつつ、T A C 設定や運用を進めるとともに、経営的な視点について十分に配慮されるべき
- ・ 太平洋クロマグロの資源管理に当たっては、大中型まき網、曳き縄等沿岸漁業、養殖等でそれぞれ事情が異なることから、地元の漁業者の意見を聞いて検討すべき、自分たちもしっかりと対案を出したい

- ・ トラフグについては、資源管理と連動した種苗放流を国としても進めていくべき等の意見があり、これらを踏まえ議論を行うこととなった。

○今後の予定

4月中旬の第2回検討会は、IQやITQの議論や個別魚種としてスケトウダラ及びマサバについて検討し、5月中旬の第3回検討会は、個別魚種としてクロマグロ及びトラフグについて検討することとなった。最終的には、6月中旬の第5回検討会においてとりまとめを行う予定。

(以上)